

# これまでの検討会で出された御意見への対応

---

第2回 優良特定地球温暖化対策事業所の認定制度に係る検討会  
令和4年12月15日（木曜日）16：30～19：30  
オンライン会議

# これまでの検討会で出された御意見への対応

## (1) 第1回トップレベル検討会での各委員からの御意見と対応の考え方

### 1. 制度全体の考え方

- 地球温暖化に対する危機への対応として、スピード感をもった大幅な削減が必要。それに対応する制度となるように検討してほしい。

➡ 上記を念頭に置いた評価項目・認定水準を検討

### 2. 事業所の認定区分・認定方法

- 新設されるV(ゼロエミ化や更に進んだ取組)の評価項目は、建築物環境計画書制度との連携を考えると良いのではないかと。

➡ 建築物環境計画書の項目との連携について、トップレベル事業所の水準を勘案しながら検討

### 3. 評価項目の構成

- ウェルネスやレジリエンスの評価よりも、まずはエネルギーに関連する部分をしっかり評価することが重要
- トップレベル、準トップレベルはこれまで通り、Ⅰ(一般管理事項)、Ⅱ(建物・設備性能)及びⅢ(運用・保守管理)のカテゴリーで評価を行い、トップレベル(ゼロエミ型)はⅠ(一般管理事項)～Ⅴ(ゼロエミ化や更に進んだ取組)で評価する方が良い。
- Ⅳ(再エネ利用)やⅤ(ゼロエミ化や更に進んだ取組)を評価することで新たな対象事業所の拡大につながるのではないかと。

➡ ・エネルギー関連項目については、全ての認定区分について一定水準(準トップレベル相当を想定)以上の取組を求める方向で検討  
 ・ゼロエミッション化への取組を促進するため、現在の省エネの取組に加え、再エネ利用・ゼロエミ化等の取組も評価する方向で検討

## (1) 第1回トップレベル検討会での各委員からの御意見と対応の考え方

### 4. 具体的な評価項目

- 今後到来する再エネ大量導入時代への対応として、電気需要の最適化が重要となる。そのため、建物の電化を促進し、グリッド貢献ができるような建物が評価されるようになると良い。
- オンサイト・オフサイト等の再エネ導入方法について、他の制度も含めて優先順位等を整理してほしい。
- ウェルネスを重視すると省エネと相反する部分もある。ウェルネスについて減点方式で評価する方法等も考えられる。

➡ 具体的な評価項目案について、本検討会で提示

### 5. 省エネ・再エネの取組の促進

- 「トップレベル（ゼロエミ型）（仮称）」のインセンティブをどう考えるかで、認定申請数は変わってくると思われる。
- トップレベル認定を受けることが、レピュテーションの向上につながるような工夫をしてほしい。

➡ 認定申請等の事務負担の軽減（本検討会で提示）や、トップレベル認定を受けるメリットに繋がるような促進策について検討

## (2) 第2回専門的事項等検討会での各委員からの御意見の報告

### 1. 制度全体の考え方

- トップレベル事業所認定制度は、当初は、事実上省エネしか履行手段がない中で、新築で質が高く削減余地がない事業所を救う制度として作られた。再エネ手段が利用可能となった現在、新制度がキャップ&トレード制度全体をうまく機能させるような制度設計を検討してほしい。

### 2. 事業所の認定区分・認定方法

- 認定の条件と認定ルートとが図の中で同時に表現されており分かりにくいいため、図の表現方法について検討した方が良い。
- 建築物環境計画書との連携について、これを実施しないとトップになれない、という条件について、トップ制度の検討会でよく検討してほしい。

### 3. 評価項目の構成

- これまでの検討会で、各委員とも省エネへの取組重視で一致している。評価項目Ⅰ～Ⅲの重み付けだけでなく、その評価が分かるようにしてほしい。また、CO<sub>2</sub>削減効果が少ないと思われるⅤの取組でなく、省エネ・再エネへの投資が促されるような評価方法にしてほしい。

### 4. 省エネ・再エネの取組の促進

- 事業所がよりメリットを感じられるような情報の公表方法について、人材の確保や従業員の満足度等の観点から、これだけの制度を理解して結果を出しているというキャリアを誇りに思えるようなことに繋がると良いのではないかと。新たにそうした観点からも、公表方法を考えてみたらどうか。